

This story is from an ancient kingdom called Phrygia.

This kingdom was ruled by a king named Midas.

And there were two great gods of music in the kingdom.

One was the god of harp, Apollo, and the other was the god of flute, Pan.

These two gods were always arguing about music, each one saying their own musical performance is the best.

So these two had the king Midas decide whose music was superior.



Apollo played elegantly and gracefully with his harp,

which he was proud of.

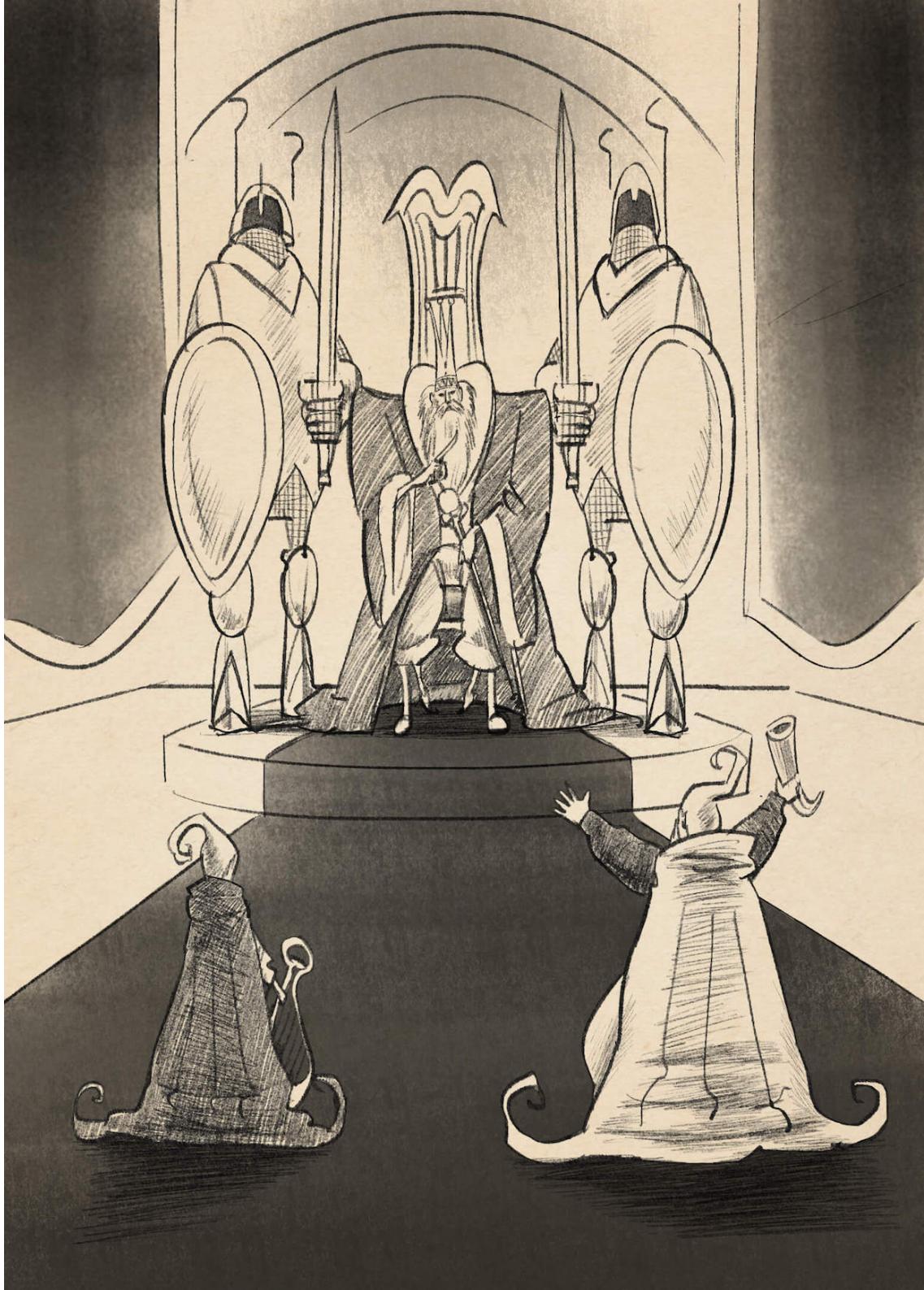
Pan, meanwhile, played a relatively simple and nostalgic melody with his flute, made of reed grass picked by a riverside.

Everyone there anticipated Apollo's victory.

However, the king's judgment was different.

"This match is Pan's!"

The truth was, since the king grew up in the countryside, he was more attracted to Pan's smoothing, natural tune than Apollo's harp.



ずっと むかし、  
フリギアという くにでの おはなしです。

このくには、ミダスおう という おうさまが  
おさめっていました。

そして このくに には、  
すばらしい おんがくの かみさまが  
ふたりいました。  
たてごとの かみ『アポロン』と、  
アシぶえの かみ『バーン』です。

ふたりは いつも、じぶんの かなでる おんがくが  
いちばんだと、おたがいに いがみあっていました。

そこで ふたりは、  
どちらの おんがくが より すばらしいか、  
ミダスおうに きめてもらうことに しました。



アポロンは、じまんの たてごとで、  
きひんある ゆうがな ねいろを かなでました。  
バーンは、かわべで つんだ アシの はで  
ふえを つくり、そぼくで どこかなつかしい  
ねいろを ひびかせました。

そのばに いた だれもが、  
アポロンの かちを よそうしました。

しかし、おうさまの はんていは ちがいました。

「この しょうぶ、バーンの アシぶえの  
かちとする！」

じつは おうさまは いなかで そだったので、  
アポロンの たてごとよりも、  
バーンの アシぶえの、しぜんな ねいろに  
ひかれたのです。

